



売店前にて

毎月の定例会の場にも何回となく来ていただき宇宙の話など何も解らない私達に優しく接し下さる先生方でした。
昭和37年、実験班の方々の便宜をはかるため、売店も設置しました。

交流を深めていったのは婦人会だけではなく、町の人達も野球やテニス、ゴルフなどいっしょにしたり、ロケット祭りや銀河マラソンに参加したり実験班と町全体の交流が深まってきました。

最初、千羽鶴は本部の応接室にとどけていましたが、リハースルの日にセットされたロケットの前でおどけたいとお願いしました。実験班や報道関係、大勢の方々の前で少しめだちたかったのカナ：

万紀男さんの講演も聞きました。平成5年5月9日、小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられ、途中音信不通となり失敗か？と思われた「はやぶさ」が幾多の困難をのりこえ7年振りに帰って来ました。持ち帰った物質が「イトカワ」由来の物である事が確認され、世界初の快挙、ウーメラ砂漠にカプセルを持ちかえり自分は燃えつきてゆくあの勇壮な姿、幾多の危機をのりこえ絶対にあきらめないスタッフの気持ち、失敗が多い程いつか大輪の花が咲く!!感動の連続でした。

婦人会、そしてロケットのおかげで町内外の多くの方々とのすばらしい出会いや交流をいただき、そして日本の宇宙開発にほんの少しでもかかわってこれた事に幸福を感じる今日この頃です。

昭和62年11月、宇宙研と関係のある二市三町で銀河連邦共和国が建国され、平成4年11月、建国五周年に当り「女性が今、手をつなぐとき」をスローガンに「銀河連邦は今こそ男女共同参画」と題して女性サミットが開催され、相模原、能代、三陸、白田と参加させて頂きました。「女房が宇宙を飛んだ」宇宙飛行士 向井千秋さんの御主人 向井

ふりかえると、戦後何もないぜ口からの挑戦だった日本の宇宙開発がどんなにか御苦労の多かった皆様の事を思うとき、「ロケットを支えた婦人会」なんて少々自負しているけど本当に支えになったのだろうかと思えます。しかし失敗を重ね国会や新聞でさんざんたたかれたとき「安住の地は内之浦にしかなかった。こんなにも実験場と地元が密接なつながりを持っている実験場は世界中どこにもない」と云って下さる先生方をはじめ、宇宙研の皆様の言葉は私達町民の誇りです。



千羽鶴の贈呈は続いた...

これも糸川先生が、内之浦に実験場を作って下さったからこそ!!あらためて糸川先生に心から感謝致します。今年「はやぶさ」の映画化につづき実験場開所50周年、糸川先生の生誕100周年銅像の除幕式、みんなの力を結集してすばらしい式典になりますように。